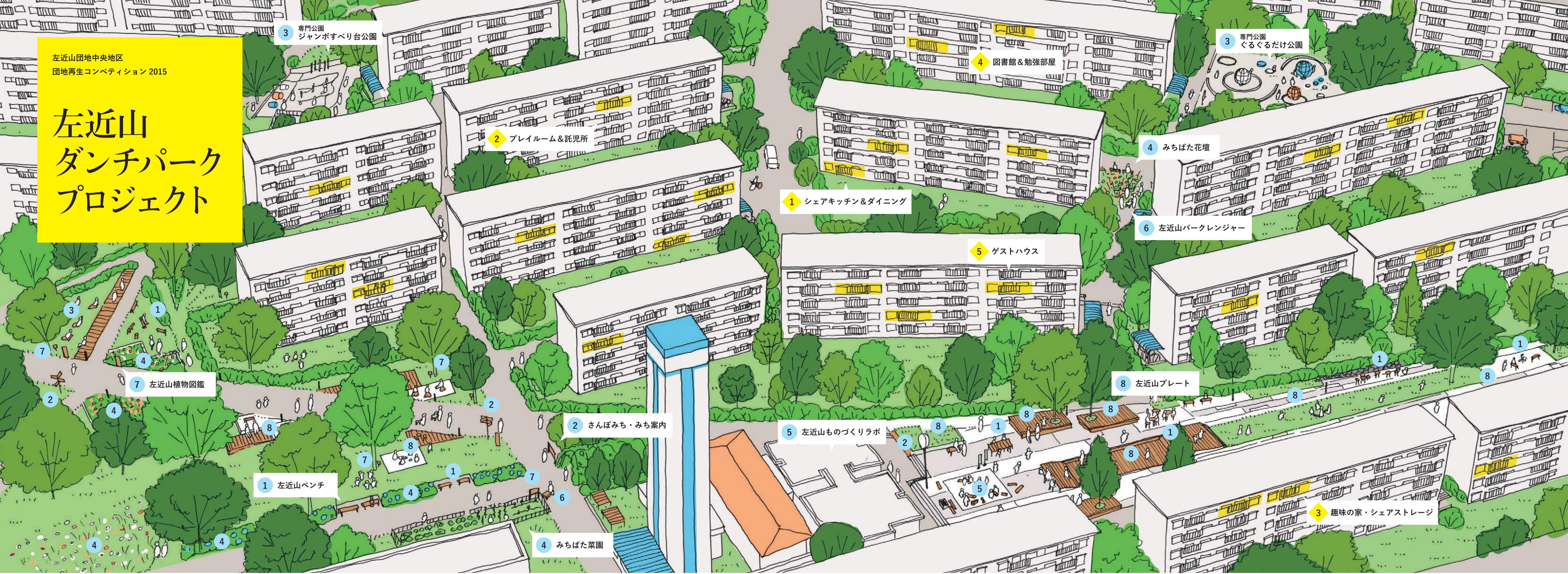


左近山団地中央地区
団地再生コンペティション 2015

左近山 ダンチパーク プロジェクト



■コンセプト

左近山団地をまるごと公園化する。左近山団地をまるごと公園化するための8つの提案

左近山団地の最大の魅力はなんといっても、約 4800 戸という大きな規模と団地内の豊かな緑です。その魅力を最大限に生かすため、左近山団地全体をまるごと公園と考え、外部空間、空き家活用、I 期整備地区を公園のように整備していくことで、コミュニティーの活性化と子育て世代の流入促進を目指します。

■公園化のための3つのポイント

1. 均質から個性へ

・左近山団地全体をひとつの公園と考え、団地内に点在するそれぞれの場所の個性、専門性を大切にします。
・団地内の公共スペースは、ひとつひとつ個性を持ってつくり、「つい行きたくなる目的地」としてたくさん存在することで、移動のきっかけを生み出します。

2. 歩く価値を高め、団地全体を回遊する

・「歩く価値」を高める目的地（点）を団地全体に散らばせ、それらをつなぐ、仕掛けづくりとしてのみちづくり（線）を進めることで、ダンチパークの回遊性を高めていくことが大切です。

3. 様々な「集まる場所」をつくる

・団地をまるごと公園として捉えることで、外部空間に植物や憩いや散歩やレジャーなどの様々な新しい機能を呼び込むことができます。
・その延長として同じ団地住民だからこそシェアできる場所として空き家を活用することも可能です。
・外部空間と空き家に多様な「集まる場所」をつくり、コミュニティー活性化と子育て世代流入を進めます。

■提案 1. 外部空間改善の考え方

左近山団地をまるごと公園化するための8つの提案

1 みんなでつくる！みんなで使う！ 「左近山ベンチ」

・団地内で有志を募り、みんなで使うベンチやテーブルを自分たちでつくる。
・「左近山印」のオリジナルベンチやテーブルを団地の共有スペースに多数設置。



2 歩く目的をつくる！ 「さんぼみち」「みち案内」

・左近山団地内に、回遊ルート「左近山さんぼみち」を設定。
・さんぼみちをたどるための案内サインやマイルストーンを設置。



3 全部が違う個性を持った、 「専門公園」

・すべり台だけの公園、ぐるぐるだけの公園、車のおもちゃを集めたプーパークなど、公園の専門性を高め、そこにしかない遊びや価値をつくる。



4 みんなで育てる。 「みちばた菜園」 「みちばた花壇」

・庭を持つことのできない住民のために共同の菜園や花壇を道端につくる。
・植物を通じて住民同士の交流をうむ。



5 みんなでDIY！ 「左近山ものづくりラボ」

・集会所の一角をリノベーションし、団地住民や近隣住人が左近山ベンチなどのものづくりができる工房をつくる。
・工具や機械を導入しシェアすることが可能。



6 公園を見守り、使うコミュニティー 「左近山パークレンジャー」

・団地内で左近山ものづくりラボの運営や公園の管理などを行う有志を募り、結成する。
・親子やお年寄りなど、世代を問わず募ることで多世代間の交流にも寄与する。



7 緑を知って楽しもう！ 「左近山植物図鑑」

・豊かな左近山の植物をサインにして表すことで、いつも目にする植物を身近に感じるきっかけをつくる。



8 団地内どこでもピクニック！ 「左近山プレート」

・団地内の緑地などの共有スペースにプレートをおき、左近山ベンチを配置することで、座れる居場所やピクニックプレイスとして利用できる。

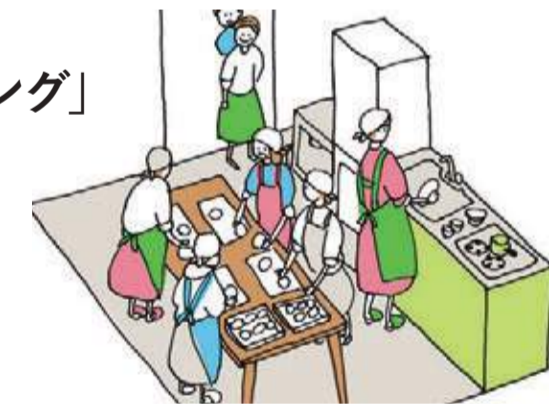


■提案 2. コミュニティ活性化に資する空き家活用イメージ

空き家の暫定利用を通して、自分の住まい+αをもつ。

1 奥様方の交流スペース。 「シェアキッチン＆ダイニング」

・同じ団地に住む友人家族やママ友どうしであつまり、食事を開催。
・料理教室やイベントや祭りの開催時、ゲストハウスのシェアキッチンとしても利用。



2 子育て世代を呼び込む！ 「プレイルーム＆託児所」

・子育て世代の親子があつまり、子供を遊ばせながら回らんができる。
・団地のリタイア世代がボランティアとして、または外部委託し、託児をすることで、子育て世代のための環境をつくる。



3 左近山住民みんなの部屋。 「趣味の家」 「シェアストレージ」

・音楽の部屋など、共通の趣味を持つ人が部屋のように気軽に集える部屋。
・いらなくなったおもちゃや洋服などをあつめることで、収納の少ない団地住居の悩みを解消し必要な人が代わりに利用できる。



4 知識と静かな空間をシェア。 「図書館＆勉強部屋」

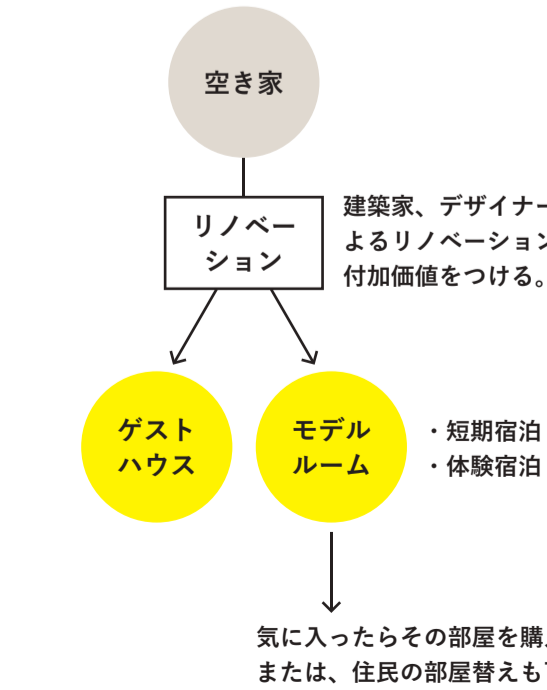
・本を集めて共用の図書館をつくる。
・静かな勉強スペースを設け、学生が友達と宿題をしたり、テスト勉強したり、大人に勉強を教えてもらえる勉強会を行う。



団地の空き家に付加価値をつけ、入居者を呼び込む。

5 団地の暮らしを体験する。 「ゲストハウス」 「モデルルーム」

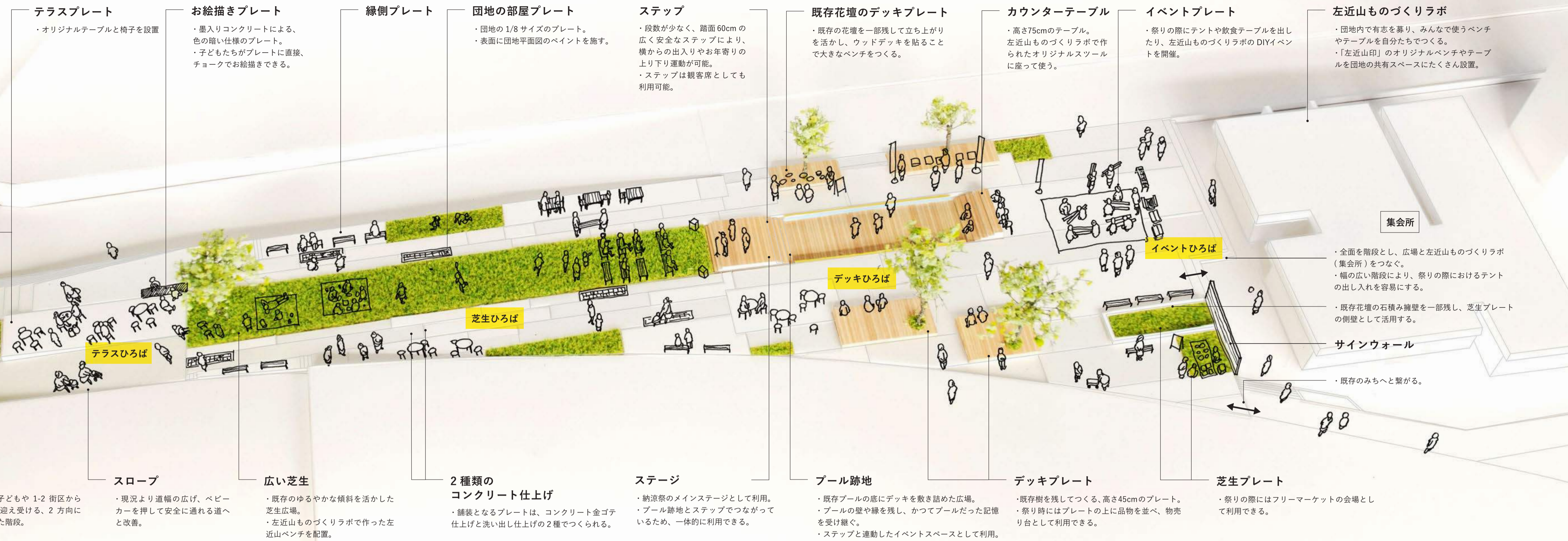
・建築家やデザイナーが空き家をリノベーション。
・住民を訪ねてきた外部の人々の短期宿泊や住民が一味違った夜を過ごすために宿泊できる部屋。
・団地の購入を検討する人が体験宿泊できる。
「左近山団地での暮らし」を体験でき、気に入れば購入や賃貸のできるモデルルームとして利用。



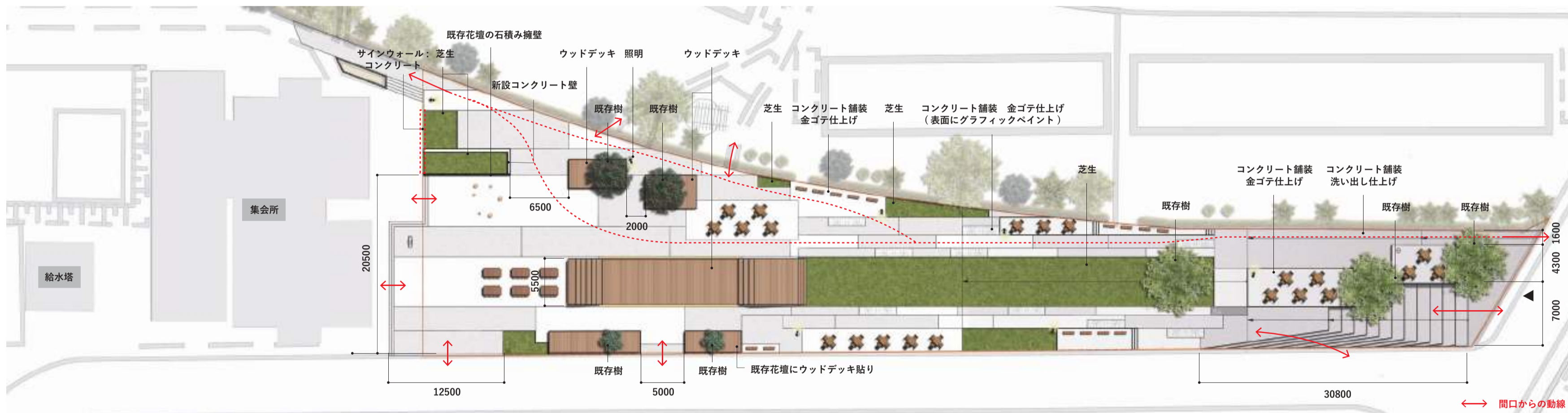
左近山団地中央地区
団地再生コンペティション 2015

左近山団地パークプロジェクト

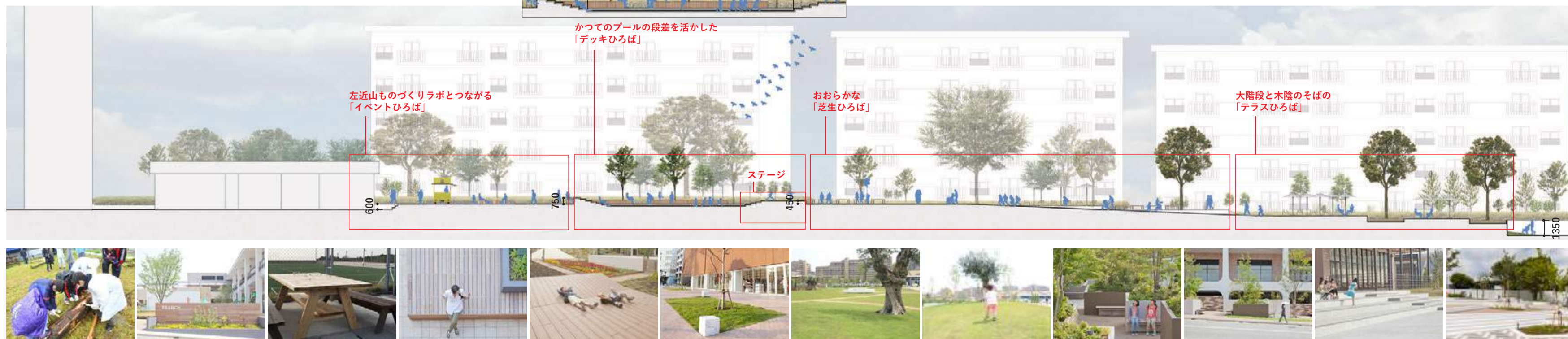
みんなの みちひろば



■配置図 s=1/400

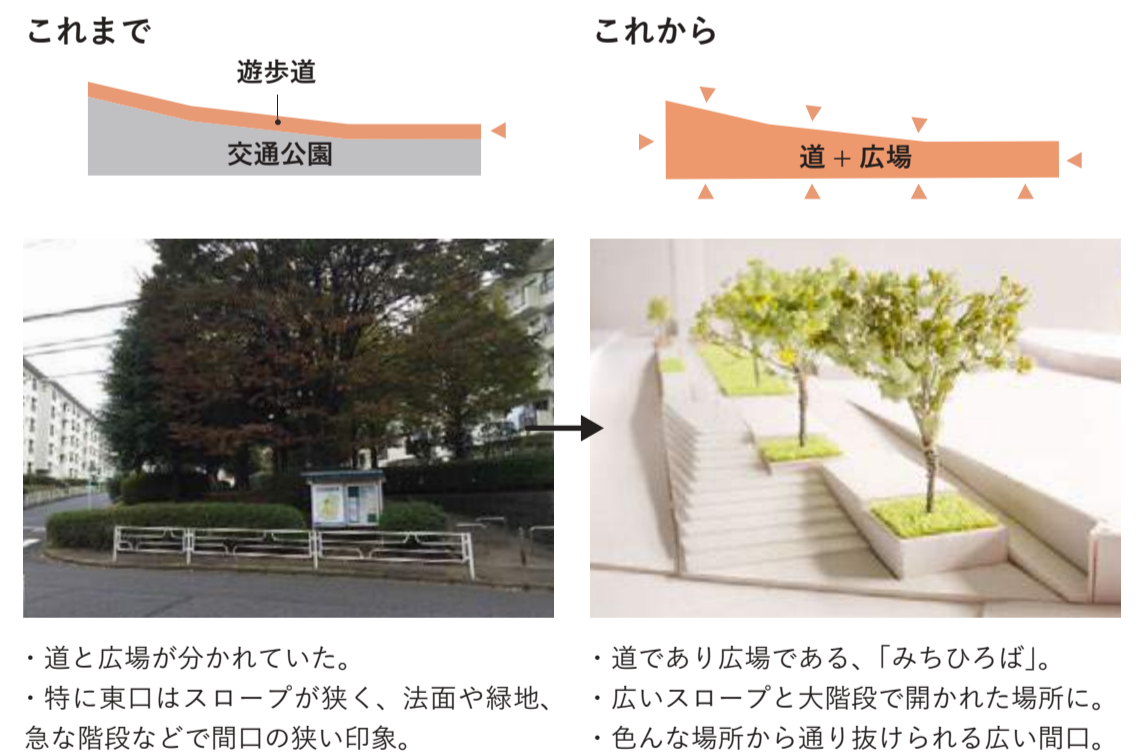


■立面図 s=1/400



■整備計画のポイント

「みち」と「ひろば」両機能を兼ねる 左近山の開かれたメインストリート



様々な活動をサポートする 「左近山プレート」



左近山ものづくりラボで作った家具が並ぶ「縁側プレート」や「テラスプレート」、団地の平面図が描かれ、家具配置の想像が出来る「団地の部屋プレート」、ピクニックのできる「芝生プレート」や定期的に催し開催される「イベントプレート」など、いくつもの様々な使い方のできるプレートが敷き詰められることで、みちひろばが生まれていきます。

4つのひろばの使い方



■概算工事費

撤去・整地工事	500万円	・コンクリートをベースとした舗装で耐久性と汎用性がありコストを抑えた計画。
園路広場工事(デッキ舗装・コンクリート舗装)	3875万円	・適宜芝生やデッキの場をつくることを優先。
施設整備工事(ベンチ・テーブル・サイン等)	130万円	
植栽工事	495万円	
電気設備工事	5000万円	
総工事費(概算)	5000万円	